平成 24 年度環境省中部地方環境事務所受託業務

平成 24 年度
北陸における環境協働・ＥＳＤ活動交流促進業務
報告書

平成 25 年 1 月
国立大学法人　金沢大学

目次

はじめに..... 1

第１章　活動概要..... 2

第２章　事例発表資料..... 6

第１節　きんたろう倶楽部による里山保全再生.....6

第２節　宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組.....12

第３節　里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり.....20

第４節　環境パートナー池田（福井県池田町）によるまちぐるみのエコ活動.....34

第５節　三方五湖の自然再生に関する環境協働活動.....41

参考資料.....51

１．北陸における環境協働活動調査報告会（案内）.....51

２．北陸における環境協働活動調査報告会参加者リスト.....52

３．Rice プロジェクト説明資料.....53

はじめに

金沢大学は、平成 23 年度に中部地方環境事務所からの受託事業として、「北陸における環境協働活動調査業務」を実施した。この事業は、北陸における代表的な環境協働活動としてどのような事業が展開されているのか、その背景と調査時点までの活動内容にいたるプロセスや協働の運営体制等を把握し、今後協働活動を推進するための課題やポイントの把握を行うとともに、それらの活動が ESD の視点を有しているものかどうかを調査し、それら事例を参考として協働や ESD の普及を進め、その関係者と連携し、新たな人材の育成を促すことを目的としていた。この事業では、環境協働活動に関する北陸の５つの活動を対象として具体的な事例研究を行い、取りまとめを行った。５つの事例とその執筆者は以下に示すとおりである。

富山県　①きんたろう倶楽部による里山保全再生
　　アースデイとやま　小島尚子氏
　　②宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組
　　富山国際大学子ども育成学部上坂研究室研究員　辻口恭子氏及び上坂博亨教授（執筆支援）
石川県　③里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり
　　NPO 法人くくのち　小中真道氏及び竹田裕治氏（執筆支援）
福井県　④環境パートナー池田（福井県池田町）によるまちぐるみのエコ活動
　　(株) 環境アセスメントセンター敦賀事務所長　関岡裕明氏
　　⑤三方五湖の自然再生に関する環境協働活動
　　NPO 法人アマモサポーターズ代表　西野ひかる氏

本事業は、「平成 23 年度北陸における環境協働活動調査業務」の成果を活かし、関係者間の交流等を促進するとともに、調査の成果を幅広く市民に周知する場としてフォーラム（報告会）を開催するものである。北陸における代表的な環境協働・ESD 活動としてどのような事業が今展開されているのか、また、その活動を推進するための課題や ESD としてのポイントを広く関係者や幅広い市民に知ってもらうため、平成 23 年度調査の対象とした事業の関係者からその内容を報告するとともに、ESD としてのポイントの明確化やその共有をする場を設け、関係者間の交流を図るとともに、幅広い市民への周知を図ることにより、地域のオーナーシップによる活動の促進に資することを目的に実施した。

本報告書における事例研究が、北陸のさらには全国の環境協働活動を進める方々の参考となり、関係者間のコミュニケーションとネットワークの強化に資することを願うものである。

最後に、本事業に多大な貢献をしていただいた関係者の方々、特に事例研究の発表者の方々にこの場を借りて深く感謝する次第である。

平成 25 年 1 月

金沢大学環境保全センター長・教授
鈴木克徳

第１章　活動概要

本事業では、平成 23 年度に中部地方環境事務所からの受託事業として実施した「北陸における環境協働活動調査業務」の成果を踏まえ、以下の５つの事例を対象として、北陸における代表的な環境協働・ESD 活動としてどのような事業が今展開されているのか、また、その活動を推進するための課題や ESD としてのポイントを広く関係者や幅広い市民に知ってもらうことを目的とし、北陸における環境協働活動調査報告会を開催した。

（対象活動）

富山県　①きんたろう倶楽部による里山保全再生
　　②宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組
石川県　③里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり
福井県　④環境パートナー池田（福井県池田町）によるまちぐるみのエコ活動
　　⑤三方五湖の自然再生に関する環境協働活動

報告会の概要は、以下のとおりである（参考資料１参照）。

日時：平成 24 年 12 月 15 日（土）13:30～16:30
場所：金沢大学自然科学本館棟第１０４講義室
主催者：環境省中部地方環境事務所及び金沢大学環境保全センター
参加者：主催者を除き約 30 名
プログラム
13:30～13:35　開会挨拶　金沢大学環境保全センター長　鈴木克徳
13:35-～13:50　ESD の推進について　RICE プロジェクト　宮城教育大学准教授川崎惣一
13:50～14:15　きんたろう倶楽部による里山保全再生　アースデイとやま　小島尚子
14:15～14:40　宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組　富山国際大学　辻口恭子
14:40～15:05　里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり
　　NPO 法人くくのち　小中真道
15:05～15:30　環境パートナー池田（福井県池田町）によるまちぐるみのエコ活動
　　(株) 環境アセスメントセンター敦賀事務所長　関岡裕明
15:30～15:55　三方五湖の自然再生に関する環境協働活動
　　アマモサポーターズ代表　西野ひかる
15:55～16:10　休憩
16:10～16:25　質疑・討議
16:25～16:30　閉会挨拶　環境省中部地方環境事務所　　（敬称略）

本報告会は、平成 23 年度調査の対象とした事業の関係者からその内容を報告するとともに、ESD としてのポイントの明確化やその共有をする場を設け、関係者間の交流を図るとともに、幅広い市民への周知を図ることにより、地域のオーナーシップによる活動の促進に資することを目的に実施した。北陸の関係者に呼び掛けるだけでなく、従来から行われてきた東海・北陸の ESD 分野での交流を継続するため、環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）との連携の下、東海地域から以下の３名を本報告会に招待した。

NPO 法人　e-plus 生涯学習研究所・岐阜大学　小林由紀子
NPO 法人　藤前干潟を守る会　坂野一博
一般社団法人　鈴鹿カルチャーステーション　片山弘子　　（敬称略）

このような形で比較的近接する東海･北陸の交流を深めることは大変有意義であり､東海、北陸双方の関係者から引き続きこのような交流機会を重視すべきとの意見が相次いだ。

また、本報告会の場を借りて、初等・中等教育における ESD を推進するユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）加盟宮城教育大学の川崎惣一准教授から、お米を通じてアジアの様々な学校の交流を促進しようという Rice プロジェクトの説明も行われた。このような、学校での ESD 活動に関する知識を NGO 等様々なステークホルダーが共有する意義は大きい。特に、Rice プロジェクトは、食文化や食の安全等各国が共有する関心も多いものの、多くの小学校では国際交流に関するハードルが高いため、児童生徒や教員のみではその実施が容易ではない。そのため、大学をはじめとする専門家や NGO が協力・支援する余地が大きく、このような場を通じての情報の共有には大きな意義がある。

今回発表した 5 つの事例は、平成 23 年度報告書の中でも指摘されているように、環境協働活動という面では共通するが、対象地域の規模、中核となる団体の性格、関係するステークホルダー、行政との関係などの観点からは、極めて多様である。それぞれの活動の特徴を整理すると以下のようになる。三方五湖やきんたろう倶楽部のように、広範囲の地域での活動を行っている事例もあれば、金沢市東原町のように、特定の極めて小さな地域での活動に焦点を当てた事例もある。活動の規模により、協働のやりやすさや効果に違いが生じていることが、事例調査の結果から伺われる。

表：5 つの協働事例の特徴

	きんたろう倶楽部	宇奈月温泉	金沢市東原町	池田町	三方五湖
対象地域の規模	主として富山市内の 7 か所の里山	宇奈月温泉	東原町 （人口 115 人）	池田町 （人口約3,200 人、1000 世帯）	福井県若狭町、美浜町にまたがる 5 つの湖
中核となる団体	NPO 法人きんたろう倶楽部 事務局 2 名 会員約 120 名	協議会、でんき宇奈月プロジェクト実行委員会	東原町地域活性化実行委員会 NPO 法人くくのち	環境パートナー池田	ハスプロジェクト推進協議会（正会員約 80 名） 三方五湖自然再生協議会（63 名）
活動	里山回復に向けた ・森づくり ・地域づくり ・仕組みづくり ・人づくり	電気自動車（EV）の導入や小水力発電等による環境にやさしい観光地づくり	耕作放棄地や竹林整備 里山の資源を活用した地域の活性化	池田町内の環境活動全般を促進支援 ・「かえる通信」等の環境広報誌 ・エコポイント事業　等	三方五湖の再生 ・ハス川魚類調査 ・カヤ田植物調査 ・水鳥観察会　等

特徴	・協働 ・連携 ・結合 ・交流 ・個人への協働の広がり	・スイスのツェルマットをモデル ・活動を支援する大学等専門家 ・協働による行政への申請等の迅速化 ・情報収集能力向上　等	・体験型農園 ・朝市 ・ダンボールコンポストを活用した街と里山とのネットワーク ・東原ふれあいフェア ・里山コラボイベント ・里山インターンシップ	・活発な環境関連団体の存在 ・100 人のパートナー会議による「自分事」としての認識醸成	・多様な生き物の生息 ・自然の劣化や・外来種の侵入による脅威 ・マルチステークホルダーによる協議会 ・地域をつなぐための小学生の積極的な役割
関係ステークホルダー	・あらゆる個人、団体への働きかけ ・個人とのつながりに拡大	地元を中心とする企業、大学、自治体等、	地域の企業、学術機関、市民団体等	町役場 商工会議所 様々な NGO　等	NGO、行政、学校、大学、漁業者、農業者　等
行政との関係	富山市が間接的にバックアップ	行政とは適宜連携協力	行政との直接的な関係は比較的薄い	極めて密接 行政による大きな支援	ぎくしゃくすることもある。
主な課題	・新たな協働へのヒント ・新会員の獲得 ・支援を必要とする者へのアピール ・活動資金の調達	・スピード感喪失 ・合意形成の難しさ ・住民意見の反映方法 ・実証実験の本格事業化 ・資金確保 ・法令の弾力的運用	・目的の共有 ・双方向の議論の必要性 ・責任と行動における対等性	・取組みの継続性	・時間が経過することによる活動の形骸化、マンネリ化 ・頻繁な行政担当者の交代 ・担当者による熱意の差 ・誰でも実施できるようなシステムづくり ・協力者に対する資金手当の確保

5つの事例の分析から見えてくるもの

今回調査した各活動に共通する特徴としては、以下の点があげられる。

・協働を推進するための中核となる団体、個人が存在する。
・協働に際しては、数多くのステークホルダー間の連携・協力がなされている。
・大規模な活動の場合には、異なるステークホルダーが中心となるいくつかのプロジェクトが緩やかに連携しているものも見受けられる。
・今回のすべての事例において、地域の自然や社会・文化が重視されている。
・持続可能な社会づくり（ESD）に際して重要と考えられる協働の必要性、有効性についての認識が一定程度共有されている。
・ESD が重視する「つながり－関係者間のつながり、事象間のつながり」が重視されている。

他方、異なる事例の分析結果から、以下のような問題が見えてくる。

・多くの事例において、関係者間で共有できるような将来ビジョンが取りまとめられている。金沢市東原町のような小規模な地域を対象とする活動の場合には、関係者間の直接的な対話の機会が多いため必ずしも明文化されたビジョンを共有しなくても済むが、活動の規模が大きくなるにつれ、認識を共有するための明文化されたビジョンが重要になる。
・規模が大きくなるにつれ、関係者間の密なコミュニケーションが難しくなり、相互に不満を持つケースも生じている。
・行政との関係については、事例ごと、ステークホルダーごとに認識が異なる場合がある。極めて密接な協力関係が保たれている事例もあれば、行政との接点が少ない事例、行政との間にギャップを感じている事例もある。行政と住民とのインターフェースをどのように構築するかは、マルチステークホルダーの協働事業を推進する上でのカギとなる。
・人材育成や地域の人々の自主性の醸成という観点からは、必ずしも十分な成果を挙げていない事例もある。これは、必ずしも失敗ととらえるべきではなく、人材育成には長期的な視野に立った継続的な努力が必要とされるためと考えられるべきである。他方、新たな視点を取り入れることにより、若者を中心とする新たな担い手づくりに成功している事例も見受けられる。
・協働を志向する活動に際しては、活動の自立性、継続性の担保、そのために必要となる地域の人材の育成について慎重な配慮が必要であることが明らかに示唆されている。

知識・経験交流のための場（フォーラム）について

・今回の報告会は、規模的には中規模であったが、極めて内容の濃い有益な交流の場であったとの評価が得られている。このような経験の交流は、協働の促進にとって不可欠な重要な活動であるが、東海・北陸では必ずしも体系的、継続的に行われているわけではない。
・今後このような ESD に関する情報・経験をマルチステークホルダーが共有できるような仕組みづくりが極めて重要であり、また、関係主体から望まれていることが本事業から明らかになったと言える。

第１節　きんたろう倶楽部による里山保全再生

きんたろう倶楽部による
里山保全再生

アースデイとやま　小島尚子

目次

1．きんたろう倶楽部
・ 設立経緯
・ 活動理念と内容
2．活動拠点と活用した資源
3．協働者の抱える問題
4．きんたろう倶楽部の強み
5．個人への協働の広がり
6．きんたろう倶楽部の課題

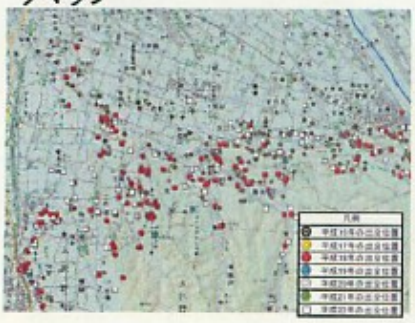
1. NPO法人きんたろう倶楽部

NPO法人
きんたろう倶楽部

事務局	： 富山県富山市古沢254番地 富山市ファミリーパーク内
事務局長	： 松田 秀明 （まつだ ひであき）
活動場所	： 呉羽丘陵、その他富山市内
事務局員	： 2名
会員数	： 120名

設立経緯

クマップ



地元新聞社による
連載

<H16>

・クマの市街地大量出没

・里山の現状について地元紙連載開始、シンポジウム開催

・富山市長によるボランティア組織設立提言

<H18>

・任意団体「きんたろう倶楽部」発足

<H23>

・NPO法人化

活動理念と内容

“山と街の参勤交代”
～森と人との循環の環（わ）～
森と街の両方を元気に！

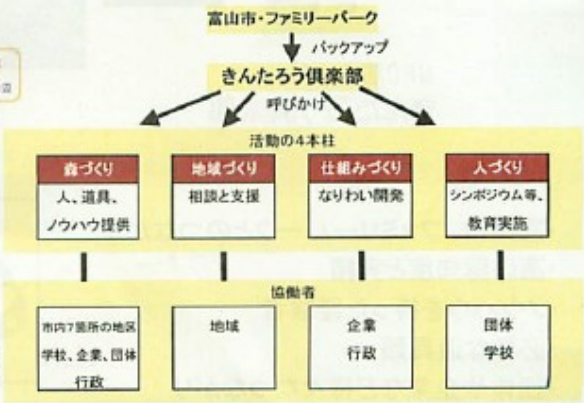
「協働」「連携」「結合」「交流」
あらゆる個人、団体が立場を超え
出来ることを拡大していけるための
支援

2.活動拠点と活用した資源

＜市内7箇所の活動拠点＞

【協働者】
富山市ファミリーパーク、
楡原中学校、めひの野園
日立国際電気、その他各地域等

＜協働の流れと活動＞



3.協働者が抱える問題

＜地域＞	＜学校＞	＜企業＞
・人手不足	・校外学習の立案	・地域へのCSR
・住民の高齢化	・実施の手間	・実施の手間
・森林の景観保全	・指導者の確保	・技術不足
・土砂くずれの危険		
・森林整備の技術不足		
・道具（予算）が無い		
・後継者育成		

人、物、技術を確保できない

4.きんたろう倶楽部の強み

NPO法人
きんたろう倶楽部

富山市
ファミリーパーク

・富山市、ファミリーパークとのつながり
・高い認知度と実績
・ノウハウを持った経験者
・必要な道具類
・団体や企業など様々なつながり

県の支援

森づくり
サポートセンター

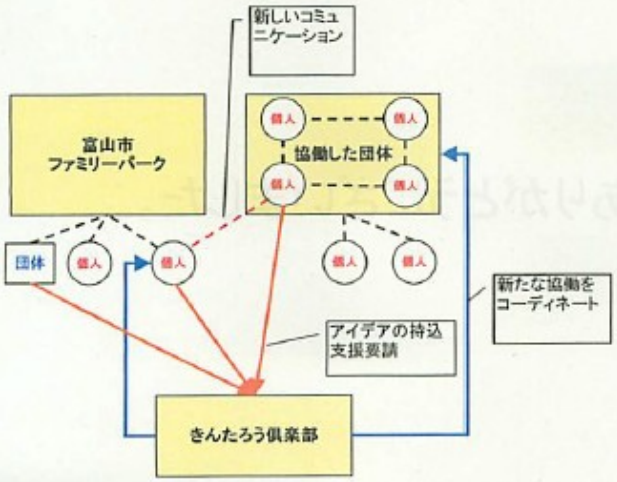
5.個人への協働の広がり

「山にコウゾで文化おこし」

和紙職人川原氏
市民いきものメイト
きんたろう倶楽部
} 1個人+2団体の協働

- ユニークな協働、新たな事業へのきっかけ
- 協働者が多いほど、各自の負担は減り、メリットは増える
- 森の利活用のアイデアを持つ新たな個人への協働の広がり

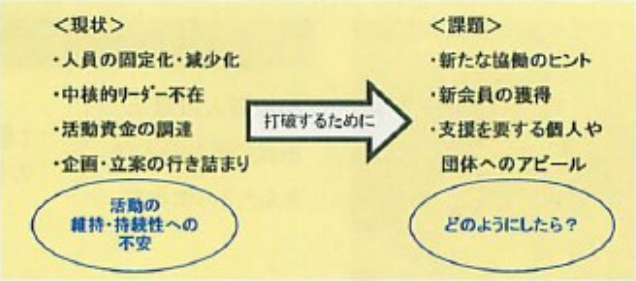
＜個人への協働の広がりの図＞



期待できること

- 個人への広がり
- 新しい協働
- 新しいアイデア
- 新しい事業
- 現代のなりわい

6.きんたろう倶楽部の課題



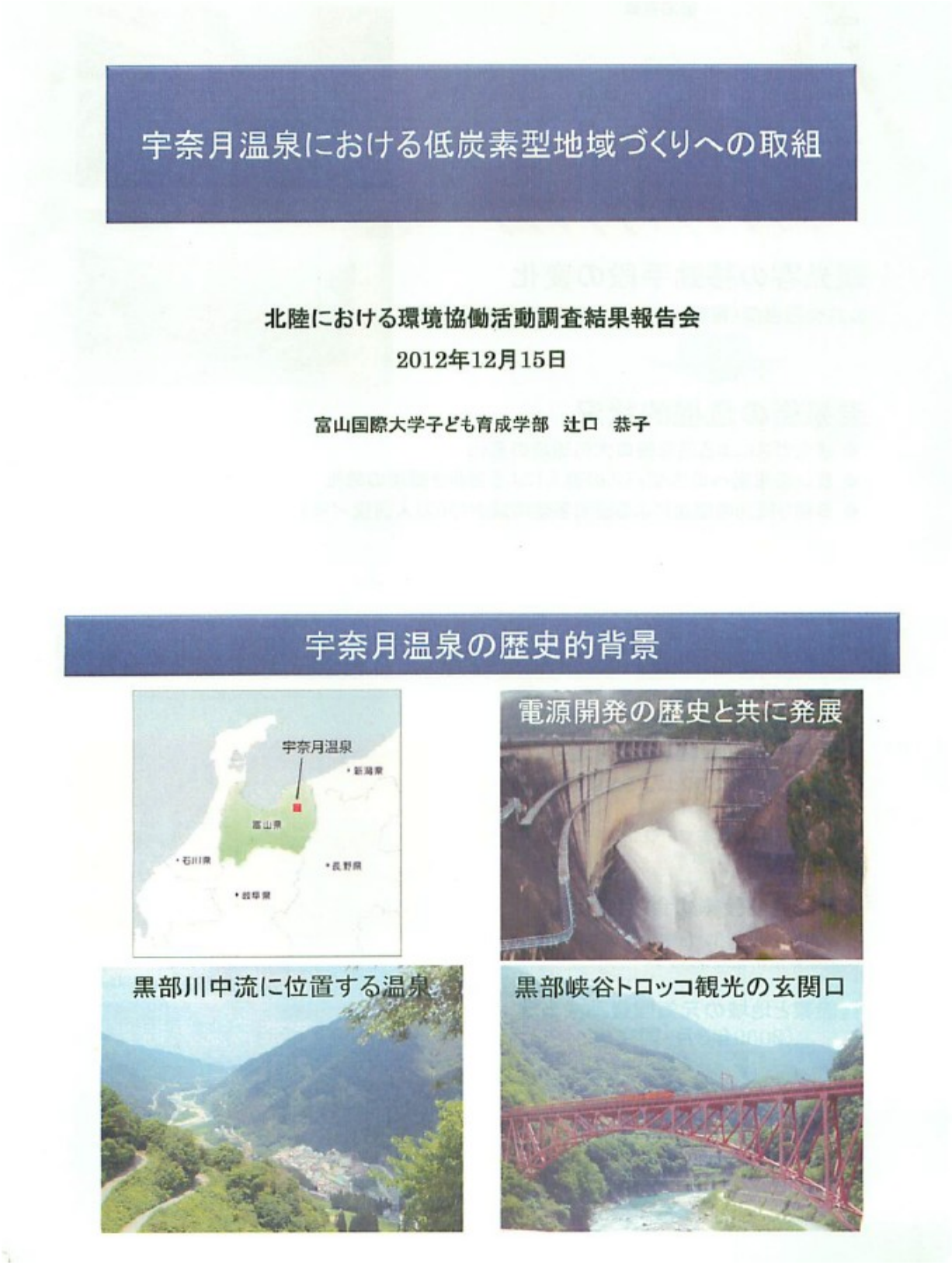
・様々な目的をもった個人や団体との協働をもっと生みたい。

・森の利活用を進めたい。

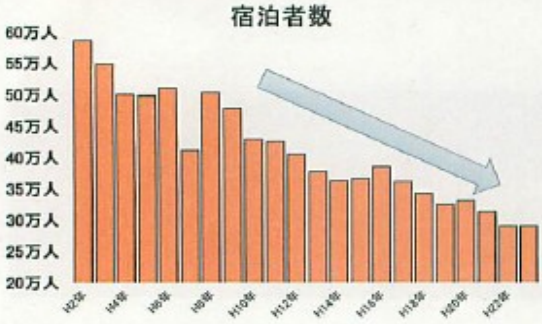
さらなる点と点との結びつけができるようになるには。。。

ご静聴ありがとうございました。

第２節　宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組



活動の社会的背景



観光客の移動手段の変化

公共交通機関（電車） ⇒ 貸切観光バス・自家用車

温泉街の危機的状況

- ◆ 排気ガスによる温泉街の大気環境の悪化
- ◆ 狭い温泉街への大型バスの進入による街歩き環境の悪化
- ◆ 日帰り観光の増加による宿泊客数の減少（30万人前後／年）

立ち上げの経緯、きっかけ

大高建設株式会社（宇奈月温泉）

- 水陸両用バスの導入による温泉街から宇奈月ダム湖遊覧事業
- 欅平から祖母谷までのワゴン車による送迎・観光ガイド事業

丸新志鷹建設株式会社（立山町）

- 小水力発電を用いた建設現場で利用可能な非常用電源システム

建設業と地域の元気回復助成事業（2009年3月・国交省）

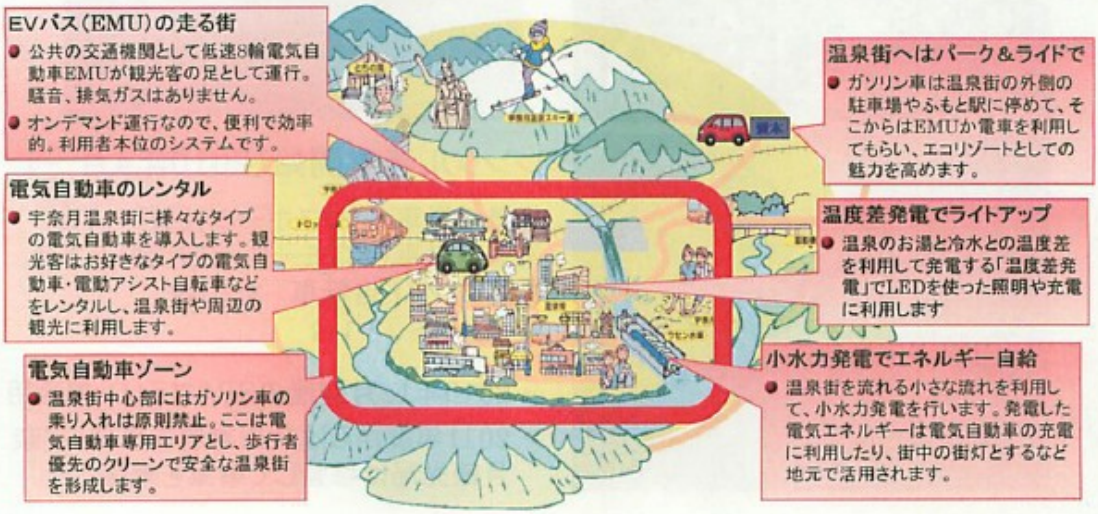
ツェルマット（スイス）での電気自動車普及の視察調査（2009年3月・富山国際大学上坂教授）

「宇奈月温泉における小水力発電と電気自動車を核とした低炭素社会型観光まちづくり」事業

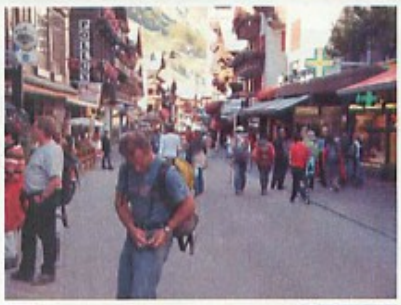
黒部・宇奈月温泉観光活性化協議会
・
でんき宇奈月プロジェクト実行委員会
（2009年7月）

目標

- 電気自動車100%の街として世界的に有名なスイスのツェルマットをモデルとして、電源開発で発展してきた宇奈月温泉を世界有数の山岳温泉エコリゾートにすること
- 北陸新幹線が開業する2014年度末までに、再生可能エネルギーと電気自動車による公共交通事業を導入すること



スイスの観光地ツェルマットの視察



2009年9月

11団体中7団体の代表者が参加し、成功例を目の当りにした
参加者全員が共通の「未来の宇奈月温泉像」を共有できた

EV等のレンタル事業

レンタル事業開始（2010年4月～）

電気自動車（ゼロスポーツ社製）×1台
電気自動車（CQモーターズ社製）×1台
電動アシスト自転車　×20台
電動カート　×1台

- 2010年12月開催のSPAマラソンで活用
- 2011年度からは貸出業務を黒部・宇奈月観光局に移管して事業を継続

温度差発電システム実験・まちづくり講演会

温度差発電システム実験

期間：2010年10月12日～2011年2月4日
用途：旅館前の照明
　　カフェのイルミネーション
　　野菜栽培用の照明（2010年11月11日～13日）

低炭素社会型観光まちづくり講演会

開催回数：5回（2010年10月～2011年9月）
参加者数：80～100名
後援：黒部市

- 環境と観光の著名人に講演を依頼
- 市の職員研修にも活用

小水力発電実証実験

期 間：２０１０年１２月 ～２０１１年２月
場所：宇奈月公民館裏敷地（市有地）
用途：蓄電池着脱式電気自動車の電力

【水車概要】
種類：ターゴインパルス水車
流量：20L/s
出力：2.0kW

テスラ ロードスター試乗会・低速8輪EVの展示試乗会

テスラ・ロードスター試乗会

2011年8月6日（土）10:00～16:00
企画：環境リゾート博実行委員会
協力：テスラモータース・ジャパン

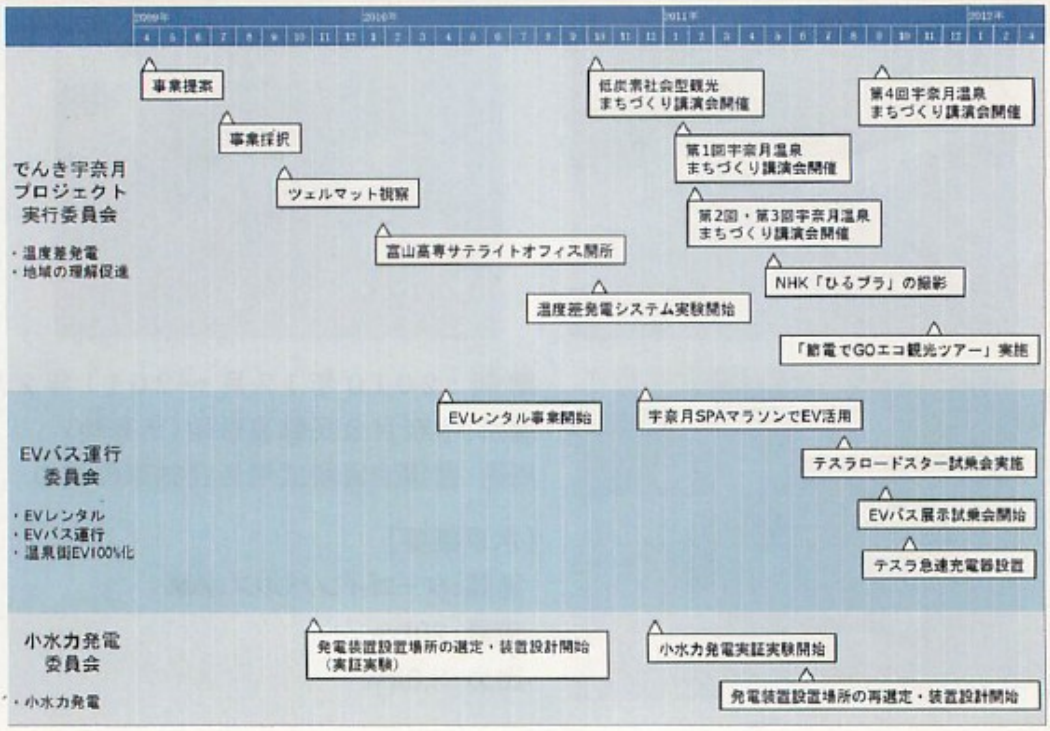
2011年10月
宇奈月温泉街にテスラ用の急速充電器設置

低速8輪電気自動車の展示試乗会

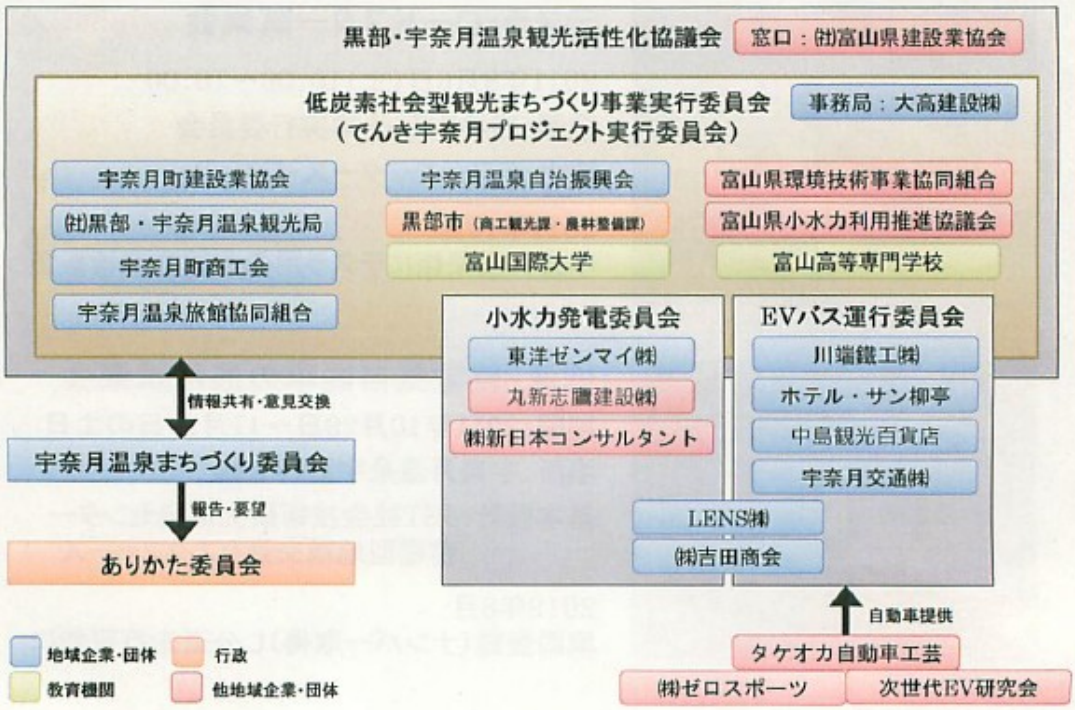
期間：2011年10月29日～11月27日の土日
場所：宇奈月温泉宇奈月公園
基本設計：JST社会技術研究開発センター
蓄電型地域交通タスクフォース

2012年8月
車両登録（ナンバー取得）し公道走行可能に

活動のあゆみ



でんき宇奈月プロジェクトの運営体制



活動を支援した地域資源

活動	支援者	内容
EVレンタル事業	富山国際大学 川端鐵工株式会社	観光コースの調査 電気自動車のメンテナンス
宇奈月活性化プロジェクト	富山高等専門学校	低炭素化事業の理解促進に協力
温度差発電システム実験	富山高等専門学校	発電システムの開発 デモンストレーション実施
まちづくり講演会等の各種イベント	宇奈月温泉まちづくり委員会 環境リゾート博実行委員会	イベントスタッフの確保 地域住民への情報提供
小水力発電事業	黒部市　農林整備課 大高建設株式会社など	水利権取得手続き 流量測定、装置の選定・設計
蓄電池着脱式電気自動車の開発	(有)タケオカ自動車工芸	電気自動車の改造・充電装置開発

協働活動のメリット・デメリット

メリット

- ◆ 行政が窓口となるような補助金事業や特区への申請が可能
- ◆ 行政としては取り組みにくい実証実験事業にも参加することが比較的容易で、そこで得られた知見や情報をまちづくりに活かすことができる
- ◆ 人的ネットワークが広がり、情報が集まりやすい
- ◆ 個々の不足している技術や能力を補完し合う事で、より規模の大きな活動が可能

デメリット

- ◆ 行政との協働では実行するまでの手続きに時間がかかり、民間のパワーやスピード感を阻害する場合がある
- ◆ 協働する団体の数が多くなればなるほど、合意形成が難しくなる

協働活動の成果と今後の課題

【成果】

◆ 活動初期の段階でプロジェクトの中核メンバーが「未来の宇奈月温泉像」を共有することで、施策の選択と集中ができ、活動への取組みに勢いがついた

◆ 様々なイベントと通して、地域住民がEVや再生可能エネルギーに触れる機会を増やすことが出来た

◆ 定期的に実行委員会を行うことで各団体の代表者の仲間意識の向上と情報共有が可能となり、連携がとりやすくなった

【今後の課題】

◆ プロジェクトの活動が地域が望んでいる将来像の形成と一致しているか住民の意見を慎重に吸い上げながら活動していくこと

◆ これまでの実証実験などの結果が、地域の事業として定着するための活動

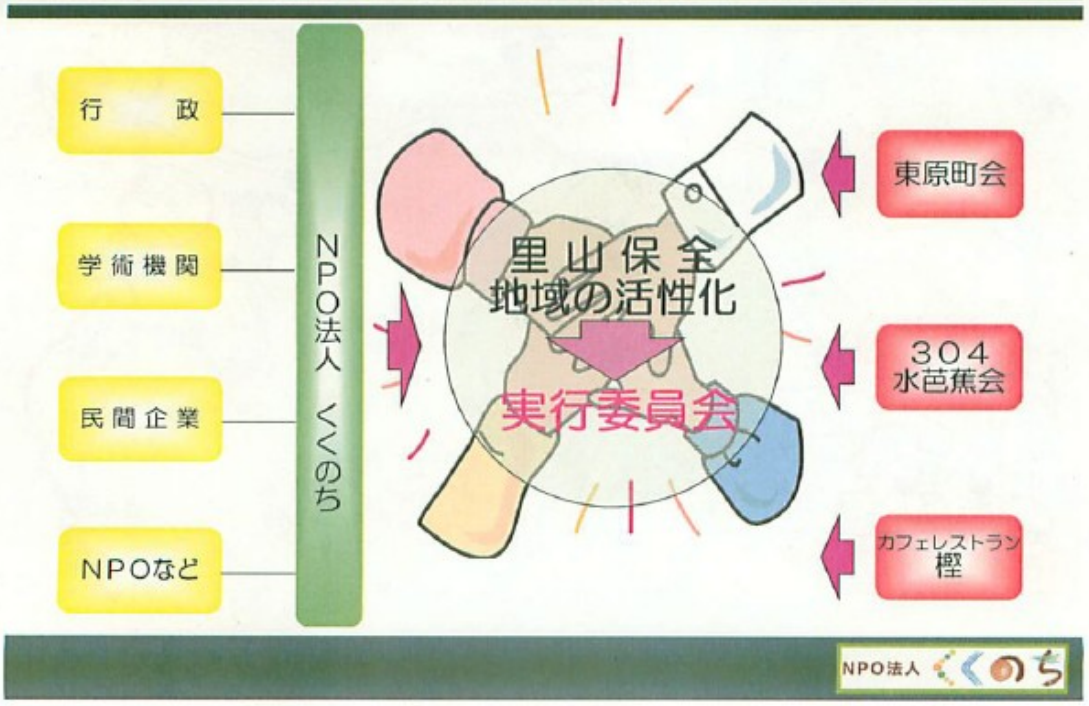
◆ 資金面で自立循環的に動く事業へ発展させていくこと

◆ 多様なエネルギー自給を進めて行くための、法令の弾力的な運用や新たな規制緩和

第３節　里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり

活動場所

里山資源を活用した地域づくり



平成２２年度の活動内容

Ⅰ　竹林整備・里山資源の活用

Ⅱ　耕作放棄地の整備　市民農園の開設

NPO法人 くくのち

これまでに整備した耕作放棄地及び竹林整備

これまでに整備した耕作放棄地及び竹林整備

これまでに整備した耕作放棄地及び竹林整備

竹材の活用

活用分野

- 農業分野
- 畜産分野
- エネルギー分野
- その他(コンポストなど)

竹の加工形状

- チップ
- 粉
- 薫炭

NPO法人 くくのち

里山にふれあう

- タケノコ掘りをして竹林を維持
- 整備した農地で、サツマイモの植え付け体験

平成２３年度の活動内容

1．環境保全型の農業を目指した体験型農園を開園

2．竹材の飼料としての利用に関する研究　(石川県立大学)

（能登牛の生産農家 H24年度から参加）

3．リモートセンシングによる水稲の生育調査
(株式会社北日本ジオグラフィ)

4．農産物の販売拡大　（コープいしかわ）

5．里山資源のエネルギー活用　(金沢工業大学)

6．段ボールコンポストで街と里山をつなぐネットワークづくり
(金沢エコライフくらぶ、石川県立大学、明和工業株式会社、
金沢市リサイクル推進課)
（金沢市校下婦人会連絡協議会 H24年度から参加）

7．地域の循環型社会形成モデル構築　(小松電子株式会社)

NPO法人 くのち

竹材の飼料としての利用に関する研究

石川県立大学と竹材を飼料として活用することを目的として、処理加工した竹の飼料成分、反芻家畜(羊)での消化率、利用性の解明を行う。

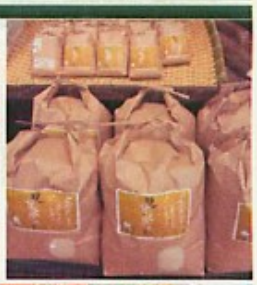
2～3年後には、東原の竹繊維を含め、県内産の飼料(副産物)で育った子羊が出荷され、カフェレストラン樫でも試食会を予定している。

（能登牛の生産農家 がH24年度から参加）

NPO法人 くのち

農産物の販売拡大

- 野菜の販売
- お米の販売
- 加工品の販売



コープたまぼこ店での水曜朝市

NPO法人 くくのち

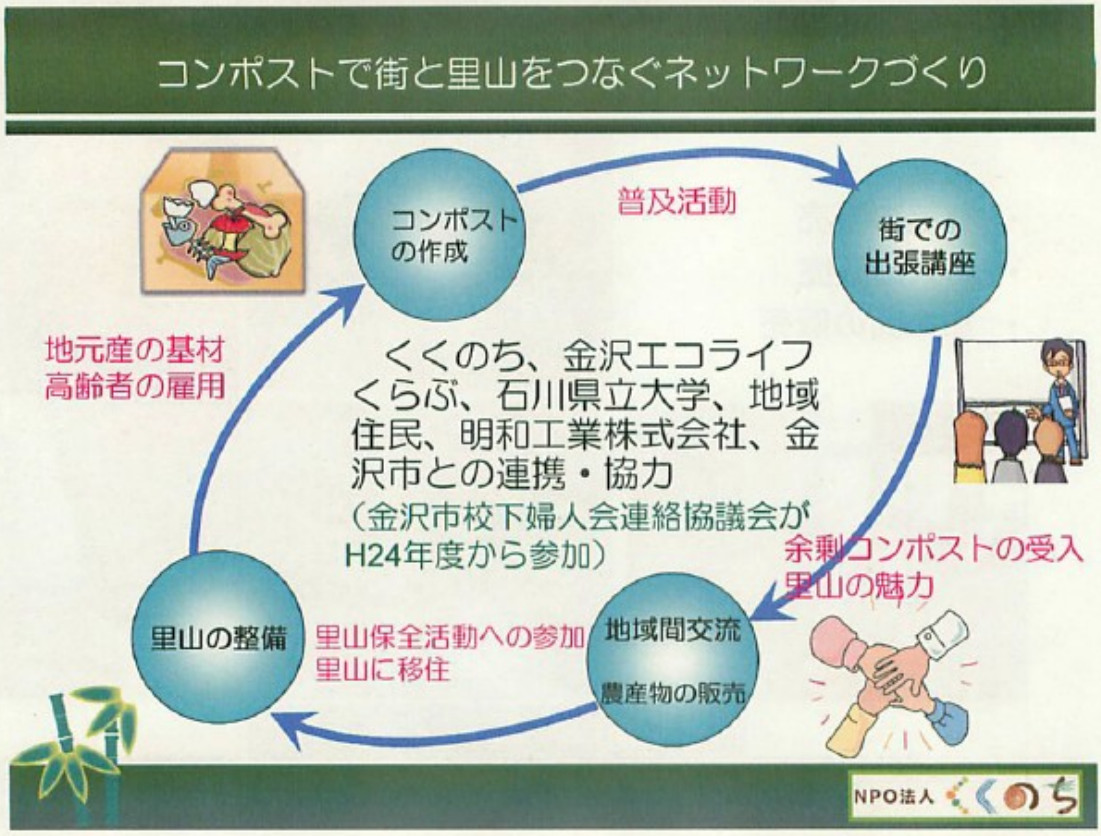
コンポストの基材

金沢産ダンボールコンポスト

もみ殻+竹くん炭の
コンポストの製品化

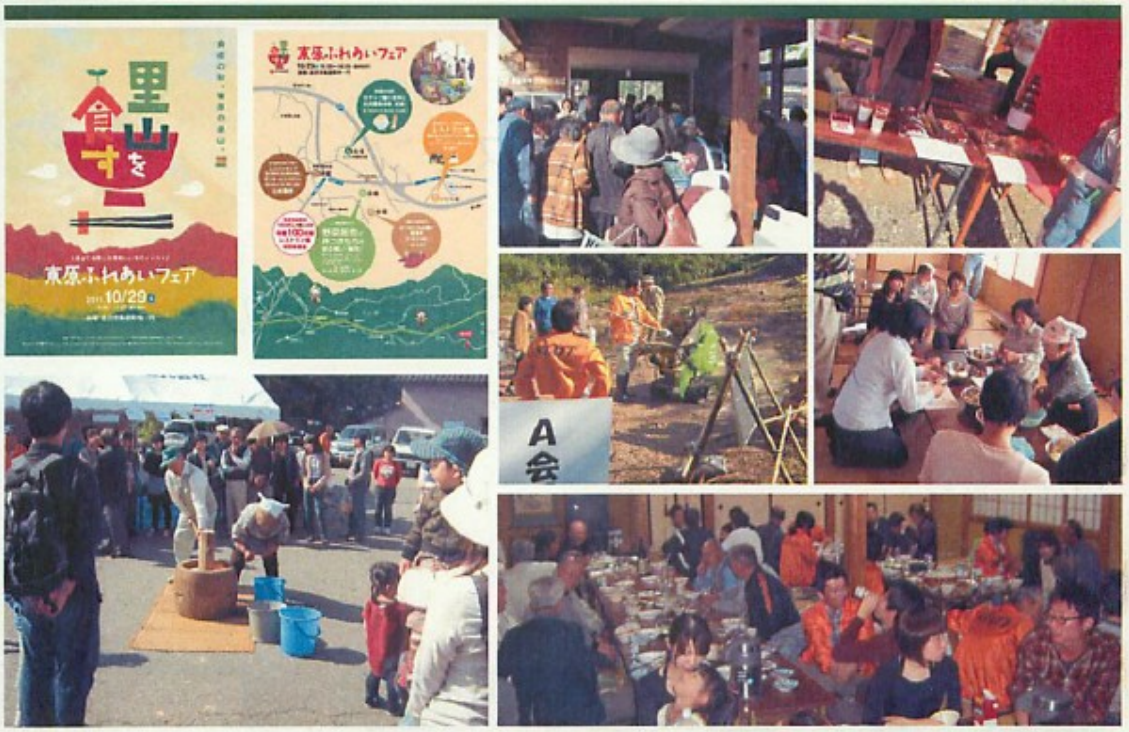
1. 蓋付きダンボール
2. 金沢産ダンボールコンポストの素
3. スターター(種菌)
4. 説明書

NPO法人 くくのち


コンポストで街と里山をつなぐネットワークづくり
コンポストの作成
普及活動
街での出張講座
地元産の基材
高齢者の雇用
くくのち、金沢エコライフくらぶ、石川県立大学、地域住民、明和工業株式会社、金沢市との連携・協力
（金沢市校下婦人会連絡協議会がH24年度から参加）
余剰コンポストの受入
里山の魅力
里山の整備
里山保全活動への参加
里山に移住
地域間交流
農産物の販売
NPO法人 くくのち

東原ふれあいフェア(平成２２年度)

東原ふれあいフェア(平成２３年度)



東原ふれあいフェア(平成２４年度)

平成２４年度の活動内容

Ⅰ　東原町のスポークスマン

Ⅱ　東原町民と「えんじょ者」との仲介

NPO法人 くのち

里山コラボイベント　マルシェ

街ナカ×里山クロッシング

もてなしドーム

金沢フォーラス

NPO法人 くのち

里山コラボイベント　里山朝ごはん

街ナカ×里山クロッシング

NPO法人 くくのち

里山インターンシップin東原

過疎・高齢化の進む中山間地域の問題や解決策を、学生の発想、専門性を活かして外からの評価、提案してもらうことで、地域の活性化に繋げる。

Ⅰ　体験型 3日間

段ボールコンポストや里山保全活動の体験、朝市体験、ワークショップ、セミナー 、虫送り

Ⅱ　課題提案型　10日間

農作業などのフィールドワーク、イベント参加、セミナー、地域資源マップ作成、報告会

NPO法人 くくのち

里山インターンシップin東原

Ⅰ　体験型 3日間

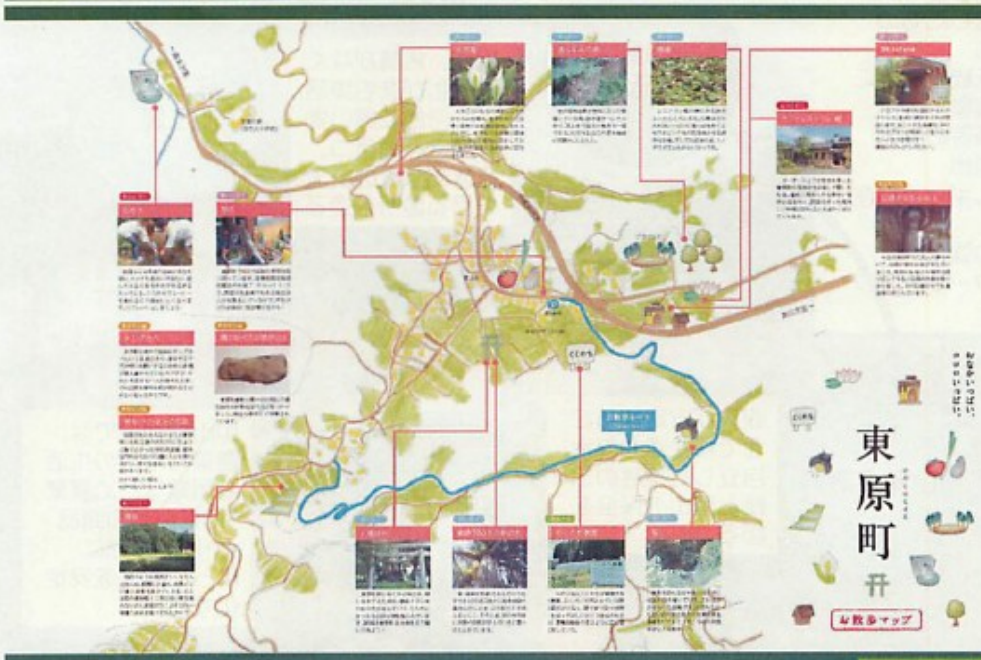
NPO法人 くのち

里山インターンシップin東原

Ⅱ　課題提案型　10日間

NPO法人 くのち

里山インターンシップin東原



NPO法人 くくのち

協働による活動

協働の利点

- 発想が単純化しにくい
- 発展しやすい
- 連携することで問題を解決しやすい

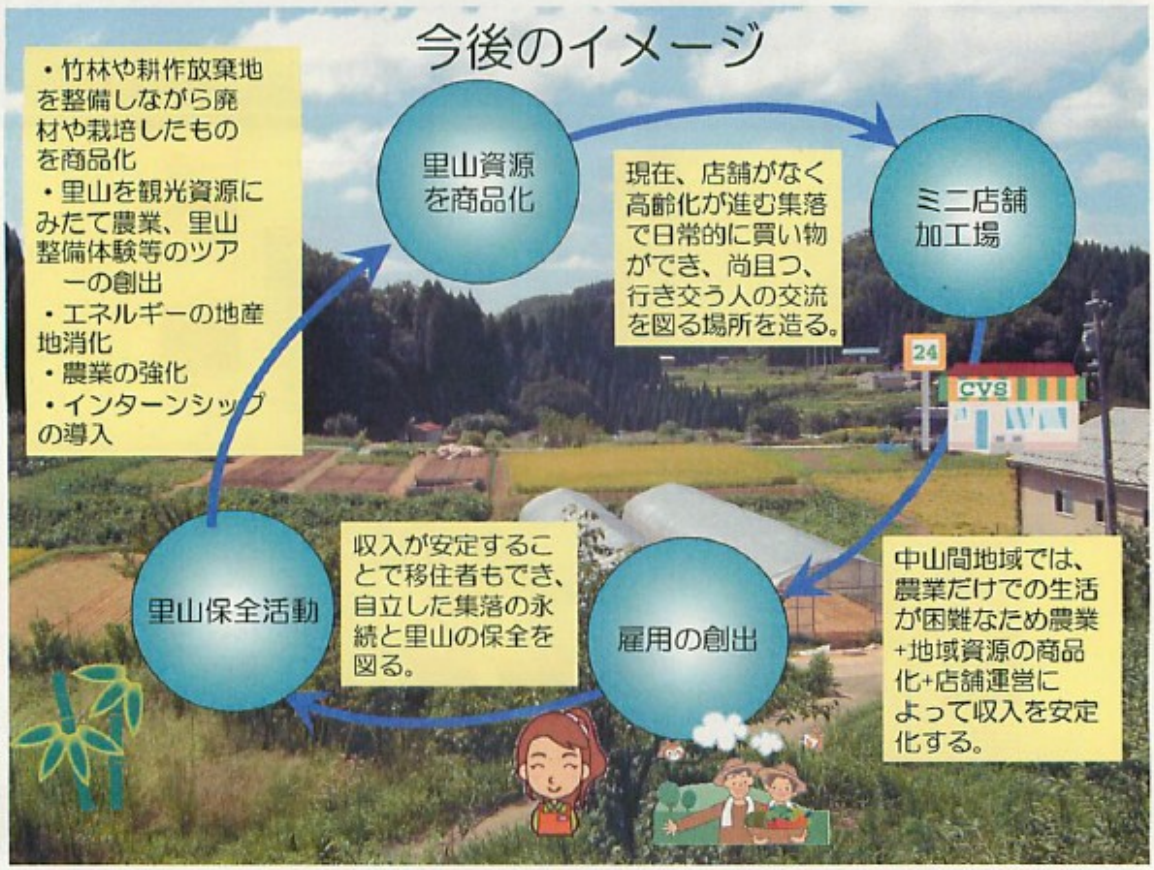
協働活動で必要な事

「共通の目的」

「双方向の議論」

「責任と行動の対等性」

NPO法人 くくのち


今後のイメージ
・竹林や耕作放棄地を整備しながら廃材や栽培したものを商品化
・里山を観光資源にみたて農業、里山整備体験等のツアーの創出
・エネルギーの地産地消化
・農業の強化
・インターンシップの導入
里山資源を商品化
現在、店舗がなく高齢化が進む集落で日常的に買い物ができ、尚且つ、行き交う人の交流を図る場所を造る。
ミニ店舗加工場
24
CVS
中山間地域では、農業だけでの生活が困難なため農業+地域資源の商品化+店舗運営によって収入を安定化する。
雇用の創出
収入が安定することで移住者もでき、自立した集落の永続と里山の保全を図る。
里山保全活動

第 4 節　環境パートナー池田（福井県池田町）によるまちぐるみのエコ活動

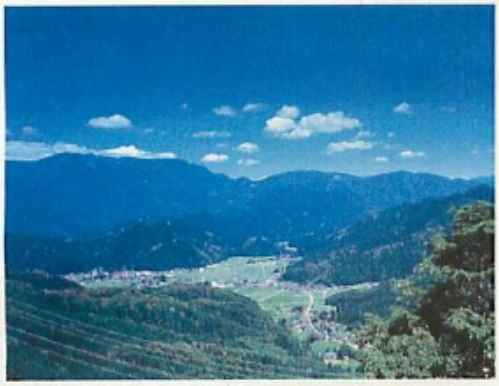
環境パートナー池田（福井県池田町）による まちぐるみのエコ活動

関 岡　裕 明　（㈱環境アセスメントセンター）

資料提供：
環境パートナー池田、池田町役場、ほか

事例調査地（福井県池田町）の概要

- □ 人　口　：　約3,200人（1,000世帯）
- □ 産　業　：　農業、林業、製造業・建設業
- □ 土地利用：　約91.7%＝山林

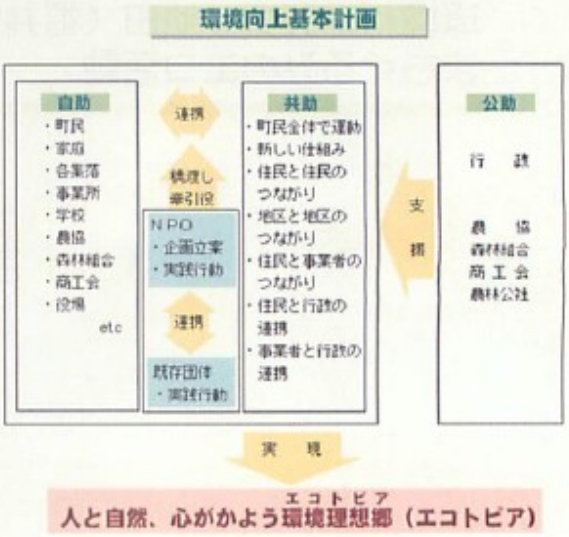


福井県池田町の景観

事例調査地の位置

池田町環境向上基本計画・「かえるプロジェクト」

「かえるプロジェクト」の一例



「かえるプロジェクト」の推進体制

資料：池田町公式ホームページ http://www.ecoikeda.jp

聞取り調査対象者

□ 環境パートーナー池田
- ・設立　平成15年6月
- ・会員　47名（理事6名）
- ・組織　当初　3部会：広報部会、エコポイント部会、イベント実践部会
  現在　理事
  ※有償の職員等は配置されていない。
- ・構成員　一般住民
- ・事務局　一般町民（池田町役場勤務職員）
- ・運営費用　会費（2,000円/年）

□ 池田町農林公社
- ・設立　平成6年

□ 池田町総務政策課

“環境パートナー池田”の活動（1）

- 環境広報紙「かえる通信」
- エコポイント事業

“環境パートナー池田”の活動（2）

- 水生生物調査・植物調査
- 外来種駆除（セイタカアワダチソウ）作業
- 資源回収
- いけだエコキャンドル

エコポイント事業のフロー

資料：環境パートナー池田（平成18年）

「エコいけだ環境ネットワーク」

■ エコいけだ環境ネットワークで紹介されている団体一覧

・池田町 公式サイト
・環境Uフレンズ
・環境パートナー池田
・池田町農林公社
・池田町商工会
・日本農村力デザイン大学
・eいけだ観光情報
・森人のかくれ里
・(財)池田屋
・農業共同体コムニタ　ほか

※サイトの運営主体
環境Uフレンズ　http://www.ecoikeda.jp

池田町における環境関連団体一覧

No.	団体名	活動概要
1	NPO法人Uフレンズ	食Uターン事業（回収活動）、コステーション事業ほか
2	環境パートーナー池田	環境広報紙「かえる通信」発行、エコポイント事業ほか
3	まちおこし21環境部会	川クリーン大作戦、セイタカアワダチソウ撲滅運動ほか
4	農村力デザイン研究所	日本農村力デザイン大学の企画・運営、ほか
5	あゆみの会	ゴミ分別状況調査、トレイ回収、廃油石けん作りほか
6	池田清掃ボランティア	公共施設や広場の草刈り・ゴミ拾い
7	池田町アメニティ活動推員	山菜料理・伝統料理の伝承
8	池田町商工会	協賛商店のとりまとめ
9	池田町総務政策課	環境条項実践の企画、環境関連団体のパイプ役
10	池田町地域活動連絡協議会	地域教育・育成活動の情報交換、リサイクルバザー
11	池田ファーマーズクラブ	農地保全活動・米の品質アップほか
12	池田町農林公社	農地保全・土作り事業、担い手育成事業、ほか
13	101匠の会	安全・安心な野菜作り、「こっぽい屋」へ出荷
14	木まま倶楽部	ログハウス作り
15	JA婦人部	営農講座開催、花いっぱい運動参加

協働活動の成果（1）

1日1人あたりゴミ排出量＝池田町が一番少ない！

協働活動の成果（2）

リサイクル率＝池田町が一番高い！

協働活動の成果（3）

池田町での環境関連受賞案件

受賞名	受賞年、受賞対象
第5回自治体環境グランプリ・環境大臣賞 ダブル受賞	平成18年1月、池田町及び池田町民
平成18年度バイオマス利活用優良表彰 バイオマス活用協議会会長賞	平成18年度2月、環境Uフレンズ
第22回ふるさとづくり広報紙コンクー 知事賞	平成18年11月、環境パートナー池田 「かえる通信」
第12回環境保全型農業推進コンクール 農林水産大臣賞	平成19年3月、食Uターン事業
第57回日本観光ポスターコンクール 金賞・国土交通大臣賞	平成19年4月、池田町
第23回ふるさとづくり広報紙コンクール 知事賞	平成19年11月、2度目、 環境パートナー池田「かえる通信」
「わがまちLOVE・アース」コンテスト　金賞 ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全国大会2008　優秀賞	平成19年11月、平成20年2月 環境パートナー池田 「エコポイント事業」

まとめ（1）

池田町では、どうやって成し得てきたか？

計 画

Before

他人事

「…環境問題と自らの生活は無縁のことと感じられていた…」
（環境パートナー池田 南部優子理事）

↓

地域の多様な主体の参加

■シカケ
「100人のパートナー会議」
…町役場の働きかけ（池田町環境向上基本計画を策定）
…繰り返し会議（勉強会含む）

↓

After

自分事

「…みんな、しらんぷりはできないと思うようになってきた…」
（環境パートナー池田 南部優子理事）

↓

実 行

まとめ（2）

課題もある！

取り組みの継 続

「…忙しい日常のなかで、繰り返し継続することは難しい…」
「任意団体の活動には限界もある」
（池田町某氏）

例：エコキャンドル事業の運営

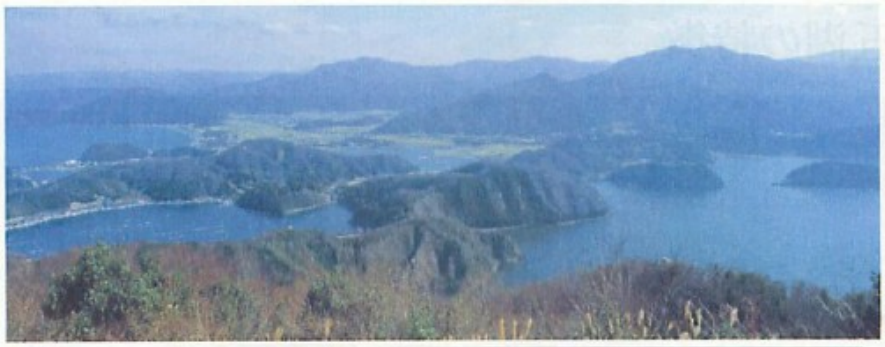
当初・・・ 環境パートナー池田

↓

現在・・・ 池田町商工会議所

お世話になりました
環境パートナー池田・南部優子理事、池田町役場職員の方、池田町農林公社、町内のお店の方、…

第５節　三方五湖の自然再生に関する環境協働活動



三方五湖の自然再生における
環境協働活動調査

アマモサポーターズ　代表　西野ひかる

三方五湖の概要

- 福井県若狭町と美浜町にまたがる5つの湖の総称。
- 福井県が管轄する二級河川。
- 若狭湾国定公園、国の名勝、県の鳥獣保護区に指定されるなど、福井県を代表する傑出した美しい風景を誇る。
- 淡水湖、汽水湖、海水湖が連なり、それぞれ塩分濃度が異なることから、多様な生き物が生息している。
- 昭和50年代以降、水質汚濁が進むが、住民による保全活動もさかん。
- 2005年にラムサール条約の登録湿地に指定された。
- 2011年に自然再生推進法に基づく自然再生協議会を設立。

五湖の特徴

湖名	水質	面積	最大水深	特徴　主な魚種
三方湖	淡水	3.45km²	2.5m	鰣川など5本の川が流入し完全な淡水 タナゴ・コイ・フナ
水月湖	汽水	4.06km²	38.0m	下部は無酸素のため、魚は上部に生息　ワカサギ・シラウオ
菅湖	汽水	0.91km²	14.5m	冬には多くの野鳥が観察できる ワカサギ・シラウオ
久々子湖	汽水	1.25km²	3.0m	早瀬川で日本海と通じる スズキ・ボラ・シジミ
日向湖	海水	0.92km²	38.0m	流入河川なし 湖口が日本海とつながる クロダイ・イワシ　ハマチ・フグを畜養

特徴的な生物種

ハス

イチモンジタナゴ

タモロコ

オジロワシ

コウノトリ

ダルマガエル

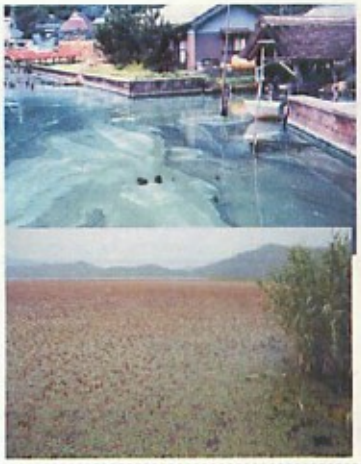
クロモ

ヒロハノエビモ

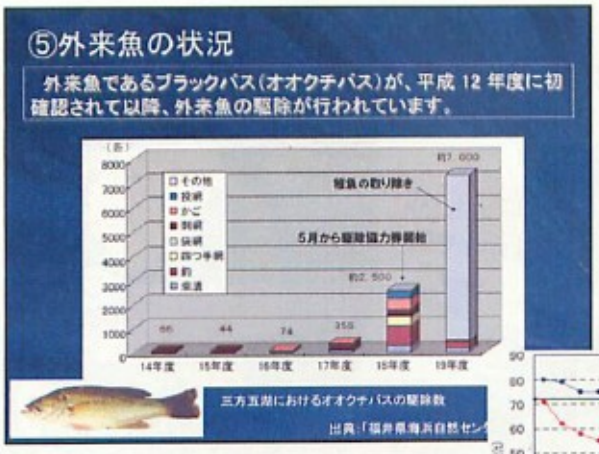
コウホネ

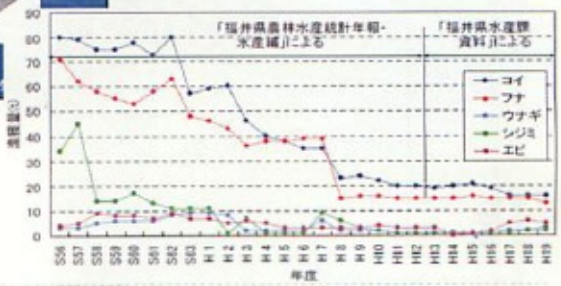
三方五湖の自然劣化の現状

- コンクリート護岸化で、自然豊かな水辺が消失
- 梅栽培の振興による農薬、化学肥料の流入
- 富栄養化によるアオコやヒシの大量発生



外来種の侵入による影響





環境改善の取組み

三方五湖自然再生協議会の設立

- 2011年5月　協議会設立
- 2012年3月　全体構想策定

三方五湖自然再生協議会の構成

- 実施主体　福井県　美浜町　若狭町
- 会長　鷲谷いづみ東京大学教授（保全生態学）
- 委員　63名（H24.3現在）
- 委員構成　行政13名、研究者9名、個人5名
  各種団体34団体（商工観光9、漁業4、農業5、女性3、教育研究3、環境保全10）
  顧問（両町長）2名

環境協働活動調査の対象について

- 調査対象:　ハスプロジェクト推進協議会(若狭町)

- (1)　役員及び部会
  会長　1名　事務局長　1名　事務局員　4名　監査役　2名
  自然環境再生部会　環境教育活動部会　地域文化研究部会
- (2)　会員数
  正会員 約80名　メーリングリスト会員　約140アドレス
- (3) 主な活動内容
  ・三方五湖流域の自然環境とその保全対策に関する調査・研究活動
  ・自然環境を中心とする環境教育活動
  ・三方五湖流域の自然環境の保全や復元に関する実践活動
  ・上記に係る広報活動

ハスプロジェクト推進協議会の活動

ハス川お魚調査

かや田の復田作業

ハス

三方五湖・湖と里のネットワーク再生ビジョン（案）

サンショウモ

昔の水辺の絵画

食文化

活動内容と協働対象(22年度)

部会名	実施月	内　容	協働の対象
自然環境再生部会	5～6月	田んぼでコイを増やす	島浜漁協
	6月	観音川河口での外来魚捕獲作戦	
	6月・8月	ハス川の魚調べ・湖のお魚調査会	海浜自然センター
環境教育活動部会	4～10月	カヤ田の整備　種まきから収穫まで カヤ田の赤米の販売	縄文博物館 ラ・しじみ　他
地域文化研究部会	6月	アメリカザリガニ、ウシガエル捕獲	島浜漁協
	6月	エビすき、ナマズとフナの稚魚探し	
	6～1月	「昔の水辺の風景絵画」 募集から鑑賞会・作品展の実施まで	若狭町の全小学校 東大・静岡大
	12月	カヤ田の藁でしめ縄作り	梅の里保育園
会長事務局	7月	サマーチャレンジ	三方青年の家
	8月～10月	環境学習・講演会・魚類調査 発表・出展	公民館・中学校 美浜町・福井県

聞き取り対象者　(8人)

	①ハスプロでの役職 ②職業	担当	主な協働の相手
Oさん	①会長(平成20年～) ②元小学校校長	会の運営 活動全般	県　町 海浜自然センター
Mさん	①事務局長 ②縄文博物館勤務　僧侶		自然保護センター 小学校　研究者
Sさん	①事務局員 ②環境コンサルタント		農業者　漁業者 他の環境保全団体
Tさん	①地域文化研究部会 ②小学校教諭	昔の水辺の風景絵画展 みそみ小総合学習	海浜自然センター 鳥浜漁協　農業者 研究者
Kさん	①環境教育部会 ②県園芸試験場勤務	かや田の管理・農作業 かや田での自然観察会	気山小学校 農業者
Wさん	①自然環境再生部会 ②県水産技術職員	ハス川の生き物観察会 田んぼで魚を増やす活動	海浜自然センター 鳥浜漁協

◎鳥浜漁業協同組合M組合長　　◎福井県海浜自然センターT所長(当時)

協働のメリット・デメリット　< 学校 >

- <メリット>
  - 専門家や地域の従事者が協力することで、小学生ながら水準の高い本物の研究ができている。
  - 地域の大人たちは子どもたちの行動によって、自分の住む地域のことを「値打ちのある地域だ」と気付き始めている。
  - 多世代アンケートや「昔の水辺の風景絵画」など、小学校が協力してくれることで、多くのデータが集まり、貴重な資料となっている。
- <デメリット>
  - 自然観察会を行事化している学校では、形だけが残り「何のためにやるのか」という一番大事なところが抜け落ちている。
  - 担当者が毎年替わり、毎回一からの説明と打合せになっている。
  - 学校側は平日昼間の行事、打合せを希望するが、人の手配が難しい。
  - 指定校として予算が付いている時や、特定の熱心な先生の力で環境教育が行われており、全体化していない。

協働のメリット・デメリット　＜行政＞

- <メリット>
  - かや田の復田は、若狭町が予算をつけ日当が支給された。冬場の重労働だったので、アルバイトとして来てもらうことができ、助かった。
  - 平成23年には「かや田」について、県・町・ハスプロ3者で「生物多様性保全協定」が結ばれ、予算が付くようになった。「任意団体が勝手にやっている」という状態から、「行政の委託を受けてやっている」という状態になり、町の広報誌でも紹介され、認知度も上がった。
- <デメリット>
  - 行政のやるべきことを、丸投げして依頼しているように感じることがある。
  - 一般職の人は専門知識がないのは仕方がないが、「自分も勉強しよう」という気持ちが欲しい。
  - 現場を見ずして、机の上で計画を立てる行政マンが多過ぎる。
  - 計画や報告書は作るが、実際にどう動いているのかのチェックがなく、取組みがすすまない。

協働のメリット・デメリット　＜農・漁業者＞

- <メリット>
  - 漁師さんと話をすると、地元の昔からの様子、時代による変化を聞くことができるので、とても参考になる。
  - 地元の人に顔が利くので、水田魚道なども広げやすい。
  - 漁協女性部はイベントなどで魚料理を出してくれる。生業の方の協力は力強い。
- <デメリット>
  - 漁業者、農業者には「ここのことは自分たちが一番よく知っている」という自負があり、研究者や環境団体とうまくいかないこともある。
  - 伝統漁法や有機農法など、研究者や行政が「やれ」というのは簡単だが、労力が増える漁業者・農業者に対して、手当てがされていない。
  - 在来魚の重要性や、同じ種であっても遺伝的な差異の問題などは、なかなか理解を得るのが難しい。

協働のメリット・デメリット <自然再生協議会>

- <メリット>
  - 異なる主体が同じテーブルにつき、同じ権限の下で話合いを進め、決定事項に法的な力がある、というのは画期的である。
  - 個々ばらばらに進めていたことを、全体の中で計画を立てて協力してやっていけるのでよい。
- <デメリット>
  - これまで、個人レベルで話をして、お互い理解しあって進んできたことが、たくさんの人相手だと大切な部分が伝わらず、形だけになってしまうような気がする。
  - 会議も大人数になると、広く浅くなってしまう。

ESDを進める上での今後の課題

- どの教員でもできるようなシステム作り。
- 環境教育に時間をかけられる教員数の余裕や恒常的な予算措置。
- 「社会貢献活動のために仕事を休む」ということが当たり前になっていくとよい
- ⇒行政や教育委員会が、講師の勤務先と提携
- 講師や協力者には相応の手当ての支給
- 自然再生に関わる情報システムの構築・情報の一元化
- 互いの「思いの共有」

Thank you for your attention!

参考資料

１．北陸における環境協働活動調査報告会開催案内

北陸における環境協働活動調査報告会

北陸における環境協働・ＥＳＤ活動がどのように展開されているのか、また、その活動を推進するための課題やＥＳＤとしてのポイントを広く関係者や幅広い市民に知ってもらうため、北陸における環境協働活動調査報告会を開催します。報告会では、代表的な環境協働・ＥＳＤ活動として、以下の５つの事例についての報告を行うとともに、環境協働・ＥＳＤ活動のさらなる推進に向けた課題を明らかにします。

富山県□きんたろう倶楽部による里山保全再生
　　宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組
石川県□里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり
福井県□環境パートナー池田（福井県池田町）によるまちぐるみのエコ活動
　　三方五湖の自然再生に関する環境協働活動

日時□平成 24 年 12 月 15 日（土）
　　13:30～16:30
場所□金沢大学自然科学本館棟第１０４講義室
主催□環境省中部地方環境事務所
□□□金沢大学環境保全センター
プログラム
13:30～13:35□開会挨拶□金沢大学環境保全センター長□鈴木克徳
13:35～13:50□ESD の推進について□RICE プロジェクト□宮城教育大学准教授□川崎惣一
13:50～14:15□きんたろう倶楽部による里山保全再生□
□□□□□□□□□アースデイとやま□小島尚子
14:15～14:40□宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組
□□□□□□□□□辻口恭子
14:40～15:05□里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり
□□□□□□□□□NPO 法人くくのち□小中真道
15:05～15:30□環境パートナー池田（福井県池田町）によるまちぐるみのエコ活動
□□□□□□□□□(株) 環境アセスメントセンター敦賀事務所長□関岡裕明
15:30～15:55□三方五湖の自然再生に関する環境協働活動
□□□□□□□□□アマモサポーターズ代表□西野ひかる
15:55～16:10□休憩
16:10～16:25□質疑
16:25～16:30□閉会挨拶
（敬称略）

申込先：金沢大学環境保全センター□
鈴木研究室□秋田
E-mail：makita@staff.kanazawa-u.ac.jp
Tel/Fax:076-234-6899

２．北陸における環境協働活動調査報告会参加者リスト

北陸における環境協働活動調査報告会参加者リスト

	氏名	所属
1	西野ひかる	アマモサポーターズ代表
2	関岡裕明	(株) 環境アセスメントセンター敦賀事務所長
3	小島尚子	アースデイとやま
4	小中真道	NPO 法人くくのち
5	辻口恭子	富山国際大学上坂研究室 研究員
6	上坂博亨	富山国際大学教授
7	川崎惣一	宮城教育大学
8	小林 由紀子	特別非営利活動法人 e-plus生涯学習研究所・岐阜大学
9	坂野 一博	NPO 法人 藤前干潟を守る会
10	片山 弘子	一般社団法人 鈴鹿カルチャーステーション
11	高木 丈子	環境省中部地方環境事務所
12	本田恭子	本田恭子企画室
13	大浦博幸	大学コンソーシアム石川
14	中嶋 廉幸	(社)いしかわ環境パートナーシップ県民会議 会長
15	中里 茂	環境カウンセラー
16	高桑 一憲	(社)いしかわ環境パートナーシップ県民会議
17	今井和愛	ESD 石川-ｔ顧問
18	千葉	北陸環境サービス
19	尾崎	敦賀市
20	建部 真理子	石川県中小企業同友会
21	赤塚 康司	環境省中部地方環境事務所
22	生田 省悟	金沢大学 人間社会研究域
23	九里 憲泰	富山県立大学
24	川口 正	(社)いしかわ環境パートナーシップ県民会議
25	高野 典礼	石川高等専門学校
26	佐南谷 信龍	石川県里山創成室
27	森江 章	いしかわ自然体験支援隊
28	笠木 幸枝	金沢大学 地域連携推進センター

３．Rice プロジェクト説明資料

平成 24 年度□日本／ユネスコパートナーシップ事業

ASP UnivNet □Rice（おこめ）プロジェクト□について

作成：川﨑惣一□
宮城教育大学（ASP UnivNet「Rice プロジェクト」事務局担当校）

１□プロジェクトの目的□

ASP UnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）では、これまでのユネスコスクール活動支援に加えて、ユネスコスクールとしての国境を越えた学校間交流を促進するために、「Rice（おこめ）プロジェクト」を展開しています。具体的には、アジア共通の「Rice（おこめ）プロジェクト」として、植物としての稲の生育や、稲作と環境・生物多様性、稲作と地域の伝統文化・芸能・祭事、稲作と食文化・食の安全などをテーマとした、国内外のユネスコスクール間の交流活動が促進されるようサポートしています。こうした国内および国際的な交流を通して、文化の多様性に触れるとともに、「おこめ／イネ」がこれまで自国の文化や歴史、環境のなかで果たしてきた役割を学ぶことで、未来の持続可能な社会の実現にむけて国境を越えた学びあいを促進することができます。

２□具体的な活動内容□

□単なるイベントではなく、アジア各国のユネスコスクールが参加する継続的なプロジェクトとしての定着を図るため、次の３つの柱をもとにした活動を実施しています。

①国内のユネスコスクール間での活動

国内のユネスコスクールが実施している「おこめ／イネ」に関連する学習のようすや成果について情報交換する機会を設けます。また、すでに「Rice」をテーマに国外のユネスコスクールと交流している学校の取組みを紹介して、それをモデルに多くのユネスコスクールがプロジェクトに参加してくれるよう促します。

②国外のユネスコスクールとの交流活動

国内のユネスコスクールのなかで、「Rice」をテーマとして国外のユネスコスクールと交流してみたい、という学校があれば、ASP UnivNet のメンバー大学が交流先となる国外のユネスコスクールを紹介し、交流活動が軌道に乗るまでサポートします。

③国際的な調査活動

□「Rice プロジェクト」に参加してくれている海外のユネスコスクールの訪問や、プロジェクトに参加してくれる国・学校を募るため、適宜、海外調査を実施します。現在、「Rice プロジェクト」には韓国、タイのユネスコスクールが参加しています。

平成24年度　日本／ユネスコ　パートナーシップ事業

ASP UnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）

Rice　プロジェクト

"Learn Rice, Learn Life."

平成２４（2012）年１２月

川﨑惣一（宮城教育大学）
E-mail: soichi-k@staff.miyakyo-u.ac.jp

Contents

1. ユネスコスクールの活動目的
2. ASP UnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）について
3. Rice プロジェクトの概要
4. 今年度の活動計画
5. 参加校募集の呼びかけ

ユネスコスクールの活動目的

- ユネスコスクール・プロジェクト・ネットワークの活用による世界中の学校との交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと
- 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと

ASP UnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）について①

- 2008年11月、ユネスコスクール（ASP）に加盟する学校を支援することを目指して、全国8大学からなるASP UnivNetが設立
- 2009年度以降、「日本/ユネスコ パートナーシップ事業」を受託し、全国各地域におけるESDの推進とユネスコスクール支援の事業を展開している

ASPUnivNet

ASP UnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）について②

2012年11月現在の加盟大学は16大学

- 北海道教育大学釧路校、岩手大学、東北大学大学院環境科学研究科、宮城教育大学、玉川大学教育学部、金沢大学、岐阜大学、愛知教育大学、三重大学、大阪府立大学、奈良教育大学、岡山大学、広島大学大学院教育学研究科、鳴門教育大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学

Riceプロジェクトの概要①

- ユネスコスクールの活動目的に「ユネスコスクール・プロジェクト・ネットワークの活用による世界中の学校との交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと」があげられていることから、ASP UnivNetでは、「Rice（おこめ、イネ）」をテーマとした国内の学校間および国際的な交流プロジェクトの推進を目指している

Riceプロジェクトの概要②

- 具体的には、ASP UnivNet加盟大学がこの「Riceプロジェクト」に参加したいという地域の学校を支援する
- 「Rice（おこめ・イネ）」は、東南アジア、南アジア、東アジアの地域の文化と密接に結びついた農作物であり、環境や食教育、水、エネルギー、伝統芸能、地域再生といったさまざまな分野を網羅しており、優れた学習テーマである

昨年度までの活動

- 平成22（2010）年10月31日 「日本／ユネスコパートナーシップ事業　ダブルネットワークショップ」開催（会場　宮城教育大学）
- 平成23（2011）年8月5～7日 「RICEプロジェクト・リーダー研修会」開催（宮城県　東北大学川渡セミナーセンター・川渡フィールドセンター）
- 平成23（2011）年11月13日　第3回ユネスコスクール全国大会サイドイベントとして国内の学校間交流研修会開催（東京海洋大学）
- 平成24（2012）年1月28～29日　タイ・韓国との学校間交流会を実施（宮城教育大学）

今年度の活動計画

- 岡山、三重、金沢、東京で「Riceプロジェクト」説明会と参加の呼びかけの実施
- 平成25（2013）年1月26日（土） ユネスコスクール全国大会（会場：奈良教育大学）にて「Riceプロジェクト」による国際的な学校間交流の活動報告

Riceプロジェクトでの交流テーマ（例）

- 環境に関連する諸問題（水、エネルギー、生物多様性など）
- 食育（栄養、食文化など）
- 経済に関連する諸問題（生産と消費、米価、自給率など）
- 地域とのつながり（地域を知ること、伝統芸能の継承など）

秋保の田植踊
（宮城教育大学主催
「伝統芸能発表会」にて）

参加の呼びかけ

- みなさんも「Riceプロジェクト」に参加しませんか？？
- 国内の学校（近隣／他の地域の学校）との交流・情報交換や、アジア諸国の学校との交流が実現します！！
- ご興味がおありの場合は、地域のASP UnivNet加盟大学または宮城教育大学までご相談ください！！

ご清聴ありがとうございました

"Learn Rice, Learn Life."

お問い合わせ先：川﨑惣一（宮城教育大学）
E-mail: soichi-k@staff.miyakyo-u.ac.jp